

○中山耕一委員長 続いて、みやぎ県民の声の質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて三十分です。佐藤仁一委員。

○佐藤仁一委員 おはようございます。知事以下、全職員の皆さん連日御苦労さまでございます。知事に左右されるよりも、自然・気象変動にいろいろと苦労させられる昨今でありますので、体調の維持には万全を期していただきたいと思っております。

三点通告してございます。それに基づいて質問してまいります。宿泊税に時間を取りたいものですから、前段二つの質問通告については、答弁のほうは前者とダブらないように、簡潔にお願いしたいと思います。

まずもって第一点でありますけれども、知事に今般の補正予算で生活困窮とか子供の問題も含めて、社会対応していることは評価するわけでありまして、予算の中に全体として力強さを感じないわけです。知事として国の出方を待っているのではなく、県民にもう少し、十月からの食品の値上がり等を含めて、また、生産資材等々も連動しております。そのような関係からいくと、どのように県民生活、または産業の状況を捉えているのか、まずもって伺いたします。

○村井嘉浩知事 大震災、そして新型コロナウイルス感染症、こういったようなもので地域経済は大変疲弊いたしました。コロナの五類移行に伴って経済は回り出しましたが、けれども、人手不足が深刻化し、そしてエネルギー等の物価高騰は依然として続いている。地方においては県民生活や事業活動に大きな影を落していると考えております。県としては、人材確保に向けた施策を一体的に進め、またDXの推進等により業務効率、また生産性の向上を図りたいと考えております。今回の補正予算案では、特に緊急を要する物価高騰対策について計上いたしました。力強さが足りないということでございますので、更に力を入れてまいりたいと思っております。

○佐藤仁一委員 ひとつその辺しっかりと、職員、現場の方々も、各産業を県民生活に心を割いていただきたいと願います。次第でございます。中でも、私この半年の中に畜産農家の方々から、いろんな形で相談を受けてまいりました。中でも一番心配しているのは、酪農家が物すごく少なくなって、畜産試験場に行つて大変失礼な言葉なんです。畜産試験場で酪農分野の試験をやめてもいいのではないかと、冗談として申し上げます。そのくらい、要は農家の減少が激しいということ。そういう観点からいくと、それ

に次ぐのが黒毛和牛の仙台牛ということで、知事がここまでブランド化して、全国の共進会等々で上位に入るような、しかしながらあまり高脂肪になって、これが消費の活動の中で、今や低迷を続けているという現実も、また一方で市場関係者並びにそれぞれの商売をやられている焼肉業者の方々から私は耳にいたすわけであります。そのような中で、今般、この金額、要は約二千五百円の飼料の関係なんです、この辺に至った経過を農政部長から答弁を求めたいと思います。

○橋本和博農政部長 みやぎ総合家畜市場におけます黒毛和種子牛の平均価格ですけれども、令和三年三月には約八十二万円でありましたが、今年の六月には約四十六万円に下落しております、県内の和牛繁殖農家戸数が昨年と比べますと、約八％に当たります百七十戸減少しているということで、和牛繁殖農家の経営は大変厳しい状況が続いていることから、県による支援も必要であると認識しているところでございます。国では、肉用子牛生産者補給金制度などにより、子牛価格が六十万円を下回った場合には、和牛繁殖農家に一定の支援が行われており、県では、配合飼料の掛かり増し経費の一部に対する支援等を行ってまいりました。県による今年度の支援ですけれども、先ほど申し上げましたが、国の経済対策がまだ示されていないということから、まず昨年度の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金のうち、今年度活用額として確保されていた分を集約しまして、畜産農家のために、今年度の第一・四半期分として一トン当たりの支援単価二千五百円を確保したものでございます。限りある財源の中で最大限の予算措置をしましたが、和牛繁殖農家への一層の支援が必要であるというふうに認識しているところでございます。県といたしましては、県内約二千戸の和牛繁殖農家の経営継続に向けた支援は極めて重要なことと捉えておりまして、早期の経済対策の実施を国に要望するほか、個々の農家の経営状況を把握しながら、必要な支援を講じるように努めてまいります。

○佐藤仁一委員 部長のデータのとおりであります。知事、私、今回のこの質問に当たって——今、部長が申し上げた二千五百円とするうちの半数ぐらいは、JA新みやぎが持っている、それが大体ここ五か年で減ってきたのが、二百五十頭の子牛の市場が要は減っているということ、更に農家戸数でいくと五十五戸減っているということ。だから大体十戸を超える数が減っているという状況です。そのような観点からいくと、やはり

今一番なのは、値段にあるような状況でありますけれども、この辺あたり捉えても、若い方々が心配している。私は、宮城県の農協青年連盟の橋本委員長に呼ばれました。色麻にお住まいになって経営をやられていますが、彼が一生懸命説くのは、若い方が離れ持てなくなってきた、年齢でやめる分については、今の数字だけでも、若い人が離れ始めたならこれは加速度的になるよと。そうすると酪農の経営分野と同じような戸数になっちゃって、多頭化はしてくるかもしれないけれども、宮城県の牛として、仙台牛としてのブランドづくりができなくなっちゃって、一方で畜産試験場で大変優秀な雌雄牛をつくっているけれども、それをしっかりとサポートしていく生産体制の育成にはならない。そういう観点からいくと、やはりしっかりとした宮城として、仙台牛として全国ベストファイブに入る、大切なおいしい牛肉を国内外に発信していくんだという強い理念と指導力を知事には持っていたいただきたいという考えのようでした。知事、この辺についての考えをお伺いしたいと思います。

○村井嘉浩知事 畜産農家に限らず、やはり少子化の影響というのは相当出てきているというふうに思いますが、その中でも特に今委員がおっしゃったように、畜産農家が非常に苦境に立たされていると、そのとおりだというふうに思います。我が県が誇る仙台牛あるいは仙台黒毛和牛、こういったものを未来永劫残していくために、やはり国任せではなく、県も全力で取り組んでいかなければならないというふうに認識しているところでございます。

○佐藤仁一委員 そして知事、恐縮でありますけれども、もう一つ聞かえてくるのが、やはり県内の事業者、要は中小と呼ばれるような地元企業の経営者の方々、半導体の心配もありましたけれども、それとはまた別問題として、何といたっても人材の確保、人材の育成、職業高校でそれぞれ学んでくるけれども、なかなかその分野に就職するとか、生業としてスタートする人たちが少なくなってきたと。そういう観点からいくとやっぱりもう少し、教育現場と社会・職域との交流的なものが必要なのではないだろうかという考え方に、いろんな点が寄せられます。そのような考えにまいますと、この辺は、知事の総合行政として、また青年たちに教育現場に夢を持たすという意味で、人材確保の面について、知事が首都圏からUターンしていただいたり、なんなの予算手当てはしておりますけれども、県内で職域高校に学ばれる学生の方々に、もっと職業に対

する、また宮城県の産業に対する人材的な面での今後の政策的なものを補正の中で、本来は当初とったデジタル化の中なり、中小の当初予算の中と連動すべきだと考えておったんですが、知事のお考えはどうでしょうか。

○村井嘉浩知事 教育と現場のマッチング、そしてそれ以外の部分との組合せ、こういったものとは有効的に考えていかなければならない時代だというふうに思っております。しっかりと取り組んでまいりたいと思います。

○佐藤仁一委員 大変社会の多様化の中で人材派遣業とかということ、いろんな広く多様性に応える社会環境が整ってきたんですけれども、一方でそういう教育的な面から社会の中で活躍をしていただく後継者として育成、また企業として、自分として、起業化していく事業者になっていくという強い信念を持つような教育というものを今後期待するものであります。

第二点目として、いろいろな今回の予算については、冒頭申し上げた生活困窮等々はじめ、更には水産林政部長には、水産の内水まで、要は大変気を配っていただいたのは、小林副知事が誕生した御祝儀政策かなと思つているところでもありますが、そのような点でありがとうございました。

次に、電子処方箋の活用等の質問項目に移ります。大変いいことで、これは質を上げていく上で大変私が必要だと思っております。私も、当時、岩出山町長をやっておりましたとき、国保連合会の副理事長をやっていて、ペーパーから電子カルテに変えた責任者でありましたので、これらについて日々関心を持っておりました。ただこれを進めていく上で、やはりプライバシーの問題、マイナンバーカードの関係から、ちゅうちょする利用者の方々がおられる。この辺含めてどのように考えているのか、財政的な手当についてはそれぞれ遠隔地、過疎地についてもそれぞれ考えられているようでありますけれども、その辺についての技術的な面について、お伺いいたします。

○志賀慎治保健福祉部長 この事業の前提となっております社会保険診療報酬支払基金が管理する電子処方箋管理サービスにおきましては、不正通信の監視遮断等の各種対策を実施して、万が一ある施設がサイバー攻撃を受けても、当該管理サービスを通じて他の施設に影響を及ぼすことがない仕組みが整備されているということで、プライバシーの保護等については一定程度しっかりと構築されているものと承知をしております。一

方で、医療機関や薬局の端末側におけるサイバーセキュリティ対策は、それぞれの施設で対策を講じていただく必要がありますので、県ではこれまでも、医療機関や薬局に対して、国が示しております医療情報システムの安全に関するガイドラインといったものがありますが、これを踏まえた対応をしっかりと講ずるよう指導してきたところでございますが、今後も引き続き、このシステムの導入に当たって、徹底を図ってまいらうに指導してまいりたいと考えてございます。

○佐藤仁一委員 時間の関係で宿泊税に入らせていただきたいと思います。お手元に今回の宿泊税について、大崎市の市民並びに大崎市内にある事業所に勤務する人たちはどのような捉え方をしているのだろうかという事で、私、八月一日から八月二十三日までアンケート調査を行いました。どのような方法で行うかということで大変スタッフは苦労したのであります。まず、新聞記事を目にしていることが多いことを前提にしたほうが、より質のいいアンケートをとれるのではないだろうか、回答してもらえないだろうかという期待感を込めて、新聞折り込みをさせていただきました。その結果、千五百四十一人の方々に回答を頂いたのでございます。そこに目を通していただきたいんですが、一枚目であります。本当は、一般質問で使うと思って準備をしましたが、うちのほうに雄弁な方々が多いものですから、私、選挙の落選ではなく一般質問の落選になったものですから、ここに提示しております。そのような形でいきますと、回答なさってくださいだったので、古川にお住まいの方が二四％、岩出山がたまたま地元だし、優秀な中島議員がいるものですから、二一％になりました、鳴子が一〇％、鹿島台が九％、田尻が八％、そして三本木、松山が七％ということで、大体人口比率からいくと、岩出山と鳴子はやはり温泉地を抱えているということもあって高いんですが、大体人口比率からいくと平均的な回答を寄せていただいたのかなと思っております。一枚目で知事に指摘したいのは、まずもって、左側の円グラフからいくと一泊が多いんですね。これはビジネス的な面があるのか、ただ単なる旅行的な、中でも宴会とかそういうのが多いのかと。これを連泊に持っていかなくはいけません。連泊に。これがまずここで御指摘しなければならぬ点だろうと。そして、大崎市民の場合はどのくらいの宿泊料金だと多く泊まっているのかなというのは、今度は宿泊税の払う金額に連動してきます。そうするとやはり一万円から一万二千円ぐらいが、旅館も含めビジネス的なものはもう

少し安いと思いますが、そのような形の中で推移しているというのが一枚目から出てくるだろうと思います。そして二つ目が、さとう道昭委員が的確な御指摘をしております。二枚目が宿泊税について知っていますかという問いについては、三三%の人が知っていると言うんです。だからややもすると、知事の七割にだんだん近づいて来ると思っているんですが、ただこれは新聞記事の関係が、特に某紙では、感情施策として一か月に十回上がっているぞと、宿泊税の記事が三十日のうち十日記事になっているとお話をする人もおりました。そしてあと、知らない、あまり知らないというのが五五%で、これ合わせると大体六七%という状況。その右隣に行きますと、今度は導入の理由について聞いたら、知っているというのは一三%。何となく知っているというのは四一%。知事が言うように、七割に近づくような兼ね合いもあるんですが、ただこれは何となくすからね知事。理解の上ではないということ。そして知らないというのが四〇%あるということもまたこれ現実として、ぜひ知っていてもraitたいと思います。

その中で、幾らがいいんですかというのと、やはり払いたくないというのが三割いるんですよ、二九%。今度、二百円なら許されるというのが二九%。この数字面白いのですが、私、いろんなところにアドバイスするときに、吉野家の牛井の、今の価格ではなくて、吉野家が始まったときの牛井の価格が一番いいんだと。だから、あ・ら・伊達な道の駅も三百円前後でやると千円で三つ買えるんだと。自宅に買う、隣のばあちゃんに買う、離れている孫に買う、そういう客単価、今ジュースもアイスクリームもパンも二百円ちよつと手前なんです。今回十月になって二百円。この二百円までは、ある程度の範囲内、仙台市は優秀だなどと思って――笑わないでください。仙台市民に、仙台市のほうに失礼ですから。こういう結果が出てまいりました。そのような関係からいくと、また一方で、必要な方々もさつき言ったような形でいるわけですから、三枚目はこのような形で、では観光財源で何を充実してもらいたい、そして皆さん支払うんですかというような形になると、クーポンがやっぱり一番多いんですね。ある程度安く泊まれる、返ってくるという観点。そして、公衆トイレ等々の回遊性の問題、あとは三番、四番、外国から来ると、どうしても二次交通、課題的なものが見えてくると、このような形でアンケートをとってみました。今回、大変残念でならないのが、部長のほうに聞きますが、どうして全体像を示さないのかと。宿泊税を導入していくための全体像。その辺りは、

私は何もありません、すぐシステムの改修費をお願いしますというのは、都合よすぎるのではないかと思っております。このようなアンケートを踏まえた中での答弁をお願いいたします。

○梶村和秀経済商工観光部長 佐藤委員のこのようなアンケート調査をしていただきました結果を見て、我々もさきの一般質問でお答えしたとおり、やはり我々も把握していません。例えば一泊の方が多いか、それから県内の宿泊の中では、海外の宿泊客が多いとかということで裏づけていただいた形で、非常に参考になりました。その上で宿泊税導入に当たって、全体像を示していないのではないかというお話だったんですが、我々としては、これまでもいろんな圏域会議、それから県民説明会におきましても、これまでの経過、それから今の宮城県の現状、そして我々が宿泊事業者、観光事業者、市町村長さんから聞いた声では、このような施策が今必要だと思われています。ですので、引き続き皆様のお声を聞きながら、これをブラッシュアップしていきたいということで、丁寧に御説明してきたつもりですが、佐藤委員の御指摘を踏まえて、改めて今後とも真摯に誠実に丁寧な説明に努めてまいりたいと思います。

○佐藤仁一委員 観光振興対応への、活用する独自財源を求めようとするならば、四年前の宿泊税にこだわらないでこの四年間、私は――部長も聞いてくださいよ。部として、また担当課として、もう少しここは継続性を持ってやってくるべきだと。県から出された経過的なものを見ると、令和二年で終わって、三年、四年、コロナがあったと言いなから、何の考えも持たないで、令和五年十二月から宿泊税導入のため始まってきてる。それも宿泊税ありき、要は財源が足りないから、財源が欲しいという姿勢しか県民には映らないんですよ。この辺知事どう考えますか。

○村井嘉浩知事 今、お話あったようにコロナが始まったということで、一回取下げをしたと。そのあとコロナがずっと続いておりまして、去年の五月まではコロナ禍でありましたのでこういう議論ができないと、コロナが終わった後にすぐに議論というわけにはいかないということで、その年の十二月ぐらいからまたいろいろ考えて、約一年弱かけていろいろ協議をしてきたということでございます。一般質問でも答弁いたしましたけれども、今思えばですね、財源ありきというふうな捉え方をされるような進め方をしたということについては、これやはり私のやり方が適正ではなかった、適切ではなかつ

たと。まずは何をやればいいのかということから、事業者の皆さんに話した上で、その上で、どれぐらいの財源が必要なのか。そしてそれをどうすればいいのかというようなことを、皆さんにお諮りすべきであったのかもしれないというふうに思っておりますが、他の自治体を見たらやはり同じようなやり方をやっていたということ、そのやり方に倣ったという点では、前例があれば、それを踏襲すればいいのではということでは決してないだろうというふうに今思っているところでございます。ただ、事ここに至って、もう間もなく、議会が始まってここまで来ておりますので、まずは、三年後の見直しということもございますので、ぜひこの議会でお認め頂きたいというのが私の強い願いでございます。

○佐藤仁一委員 知事が言うように、私は撤回するとまでは、前のさとう委員のように、強い姿勢を持っていないものですから、心弱いもんですから言いませんが。やっぱりこの辺が、要は観光促進に対してどういう税が可能なのか——そして昨日、高橋議員が一般質問でTID提案してくれましたよ。図解を出して、まさしくそれなんですよ、私の言いたいのは。この四年間の中で部長、多様な税をミックスする。要はかき混ぜて宮城県としてこれでやると。山梨県の河口湖で観光促進のために、私はあんまり立場上好まないんだけど、遊魚税を取っています。水産林政部長分かりますか。

○中村彰宏水産林政部長 すみません、承知しておりません。しっかりと勉強させていただきたいと思っております。

○村井嘉浩知事 今、小林副知事からアユ釣りのときに税を取るというふうにアドバイスを頂きました。違いますか。

○佐藤仁一委員 皆さん、富士五湖、河口湖、山中湖などでありませぬ。そうすると、要は遊魚に、釣りに来るわけ。しかしながら駐車場も使う、当然、宿泊場も使う、レジャー的な面がある。そういう点で総合的なもので遊漁税として遊漁料じゃないですよ。遊漁税として取っているのです。今回、宮城県は宿泊税に凝っているために、旅館事業者からなぜ我々だけなんだと。もっと広く税を見たらどうだと、観光促進税としてどのようないろんな税をミックスして、そういう観点でこの四年間、地方の検討委員会、県の優秀な人たちを集めたんでしょう。そういう人たちから出なかったのか。ただ形式的な委員会を何回開いたって進歩ないですよ。建設的な意見出てきませんよ。そういう点

で私は、昨日の新しい議員さん、初当選してきた高橋議員にしても、石森議員にしてもナイトビジネスの関係。そして先ほど、さとう道昭委員からお話があったような形で、非常に私は、幅を広げなければならない、多様化、多様性って言いながら、宿泊税に固持して、ここ知事ね、ゆっくり考えたほうがいい。我々議員も、知事の足を引つ張るんじゃないんだから、人間性の中で、議会の機能として、議会の役割として、もっと県民に責任を持って、こういう税を新しく、三割自治と言われる中で必要なんですよということ訴えますよ。知事が目指す観光財源を確保してやる。要は高橋議長の下に議会まとまりますよ。だからこの件について議会に時間くれませんか。県内三か所ぐらいで、県南、中央、県北、沿岸部で議会が委員会なり特別委員会をつくって、県民の観光関係の方々の意見を聞く期間を、議会にくれとは言いません。この件について議会の各会派の中で協議させてくれませんか。知事、そうやったらね、円滑な納税のシステムがきちんと宮城県として、先進事例よりもいいのができますよ。どう思いますか。

○村井嘉浩知事 すばらしい御提案であります。議会の活動については、私どものほうからこうしてくれ、ああしてくれと、これがいいということをお願いすることはできませんので、まずは議会のほうでいろいろお考えいただければと思っております。今回はぜひこの議案を認めていただいた上で、三年後の見直しということは明言しておりますので、その間に、いろいろ議員としても、地元の御意見を聞いた上で、また御提案を頂ければというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○佐藤仁一委員 知事、あともう一つ。知事がこの計上技術を持ち出して、さも正当化するかのごとく、財源がないんだからということをお願いけれども、全国の知事会のトップですし、地方六団体の指導者でありますから、今の交付税の中に、交流人口とか関係人口がカウントされてないんですよ。だから、オーバーツーリズムになってくると自己財源を使わなければならないから、目的税をかけていこうという発想に地方が立つわけだ。だからそういう観点からいくと、知事として、全国の知事会の会長として、国の地方制度調査会や財務省のほうに、また、担当省庁に、交流人口、関係人口に対する、今後交付税でのカウントをしっかりとやってくれということを強く要望しないと、この問題はずっと続いてまいります。知事の考えを伺います。

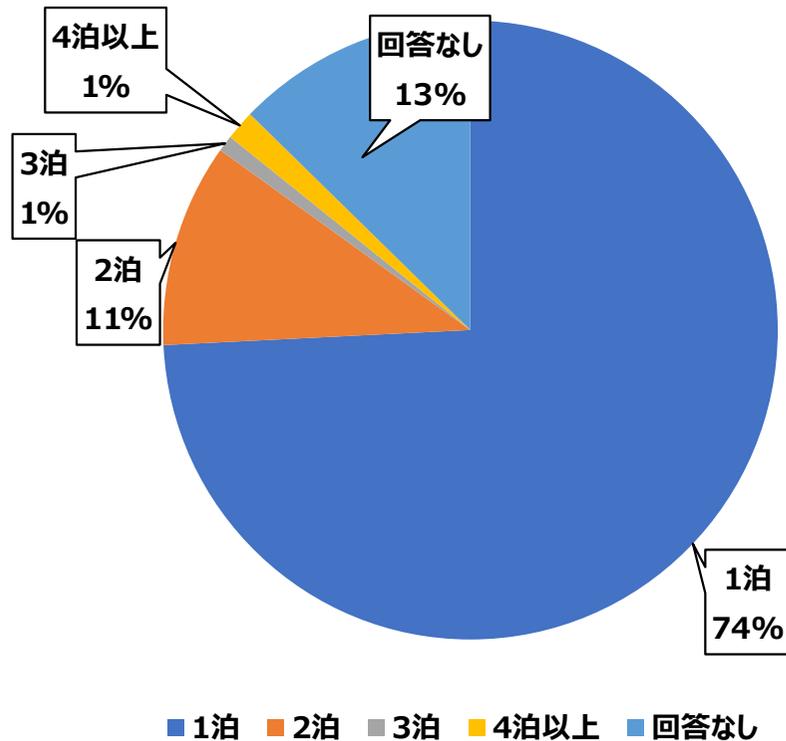
○村井嘉浩知事 知事会として政府に対する提言書の中には、もちろんそういったよう

なことも盛り込んでおりました、更にしっかりと申し上げていきたいと思っております。

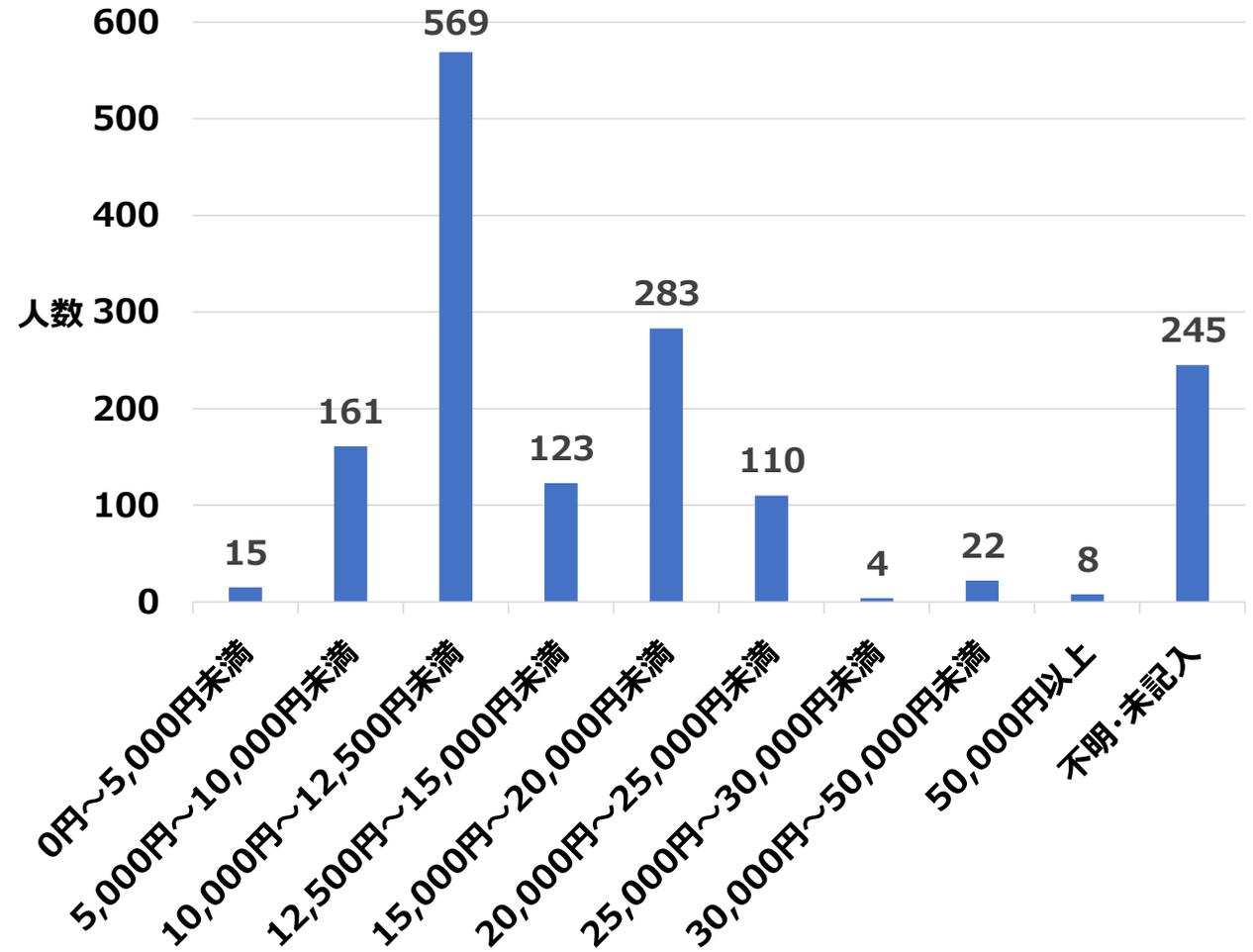
○佐藤仁一委員 終わります。ありがとうございました。

B、1回当たりの宿泊日数

1泊	1,143人
2泊	164人
3泊	13人
4泊以上	24人
回答なし	196人

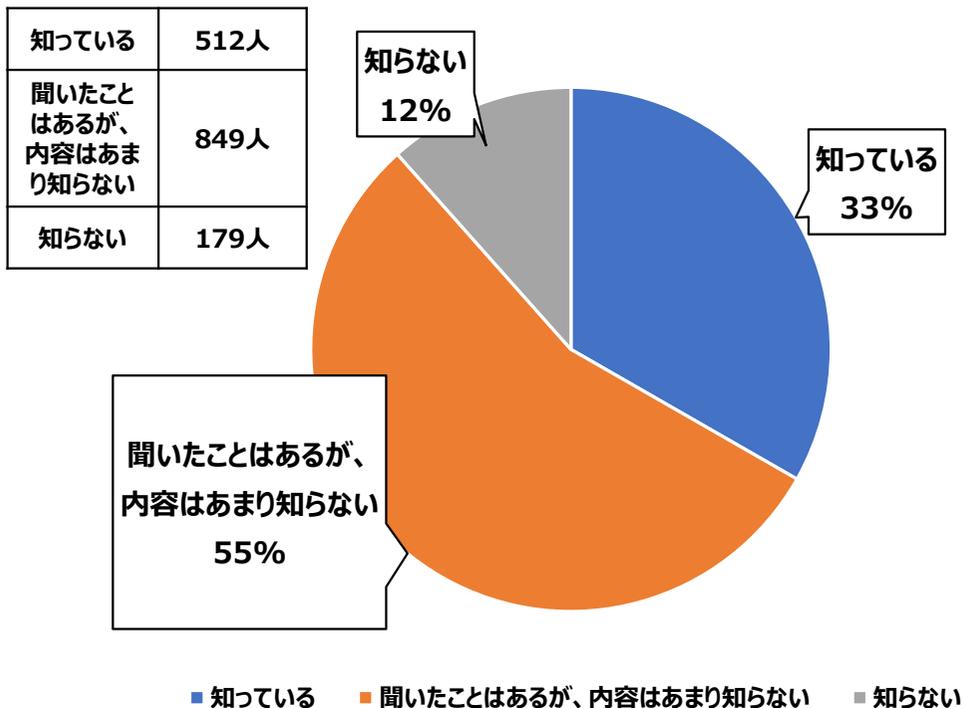


C、1回当たりの宿泊料金の予算（ひとり 円）

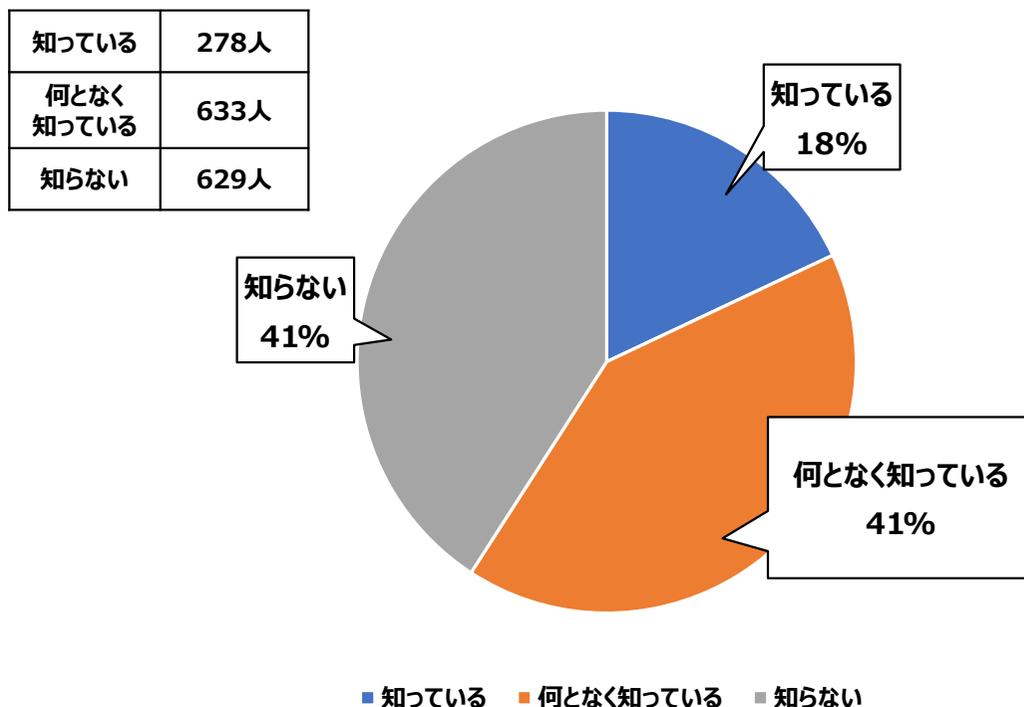


実施期間：令和6年8月1日～令和6年8月23日  
 配布方法：38,100部折込  
 折込地域：大崎市内  
 折込媒体：河北、読売、朝日、毎日、日経、産経、大崎タイムス  
 回答方法：用紙記入、webフォーム  
 回答件数：1,541件（内web72件、無効扱い1件）  
 調査：宮城県議会議員 佐藤 仁一

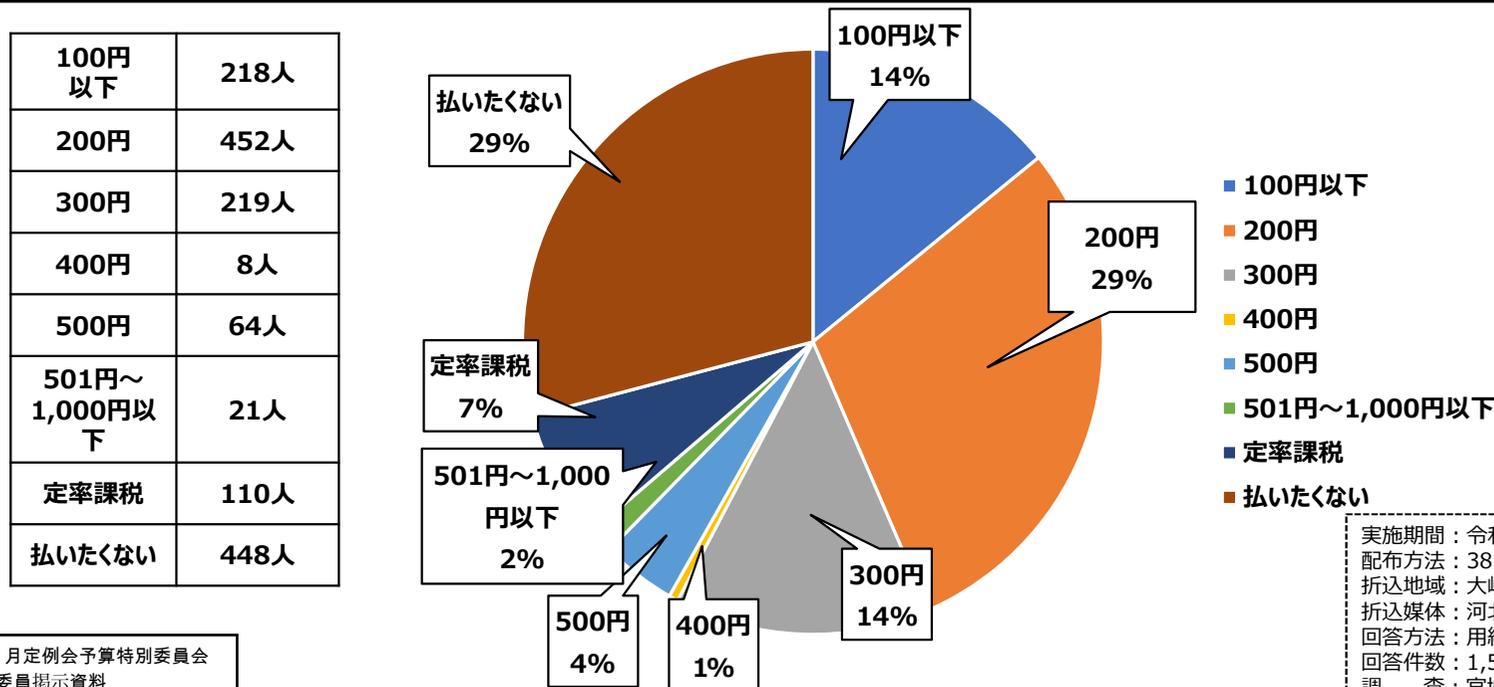
### 【問3】宿泊税について知っていますか



### 【問4】宿泊税を導入する理由について知っていますか

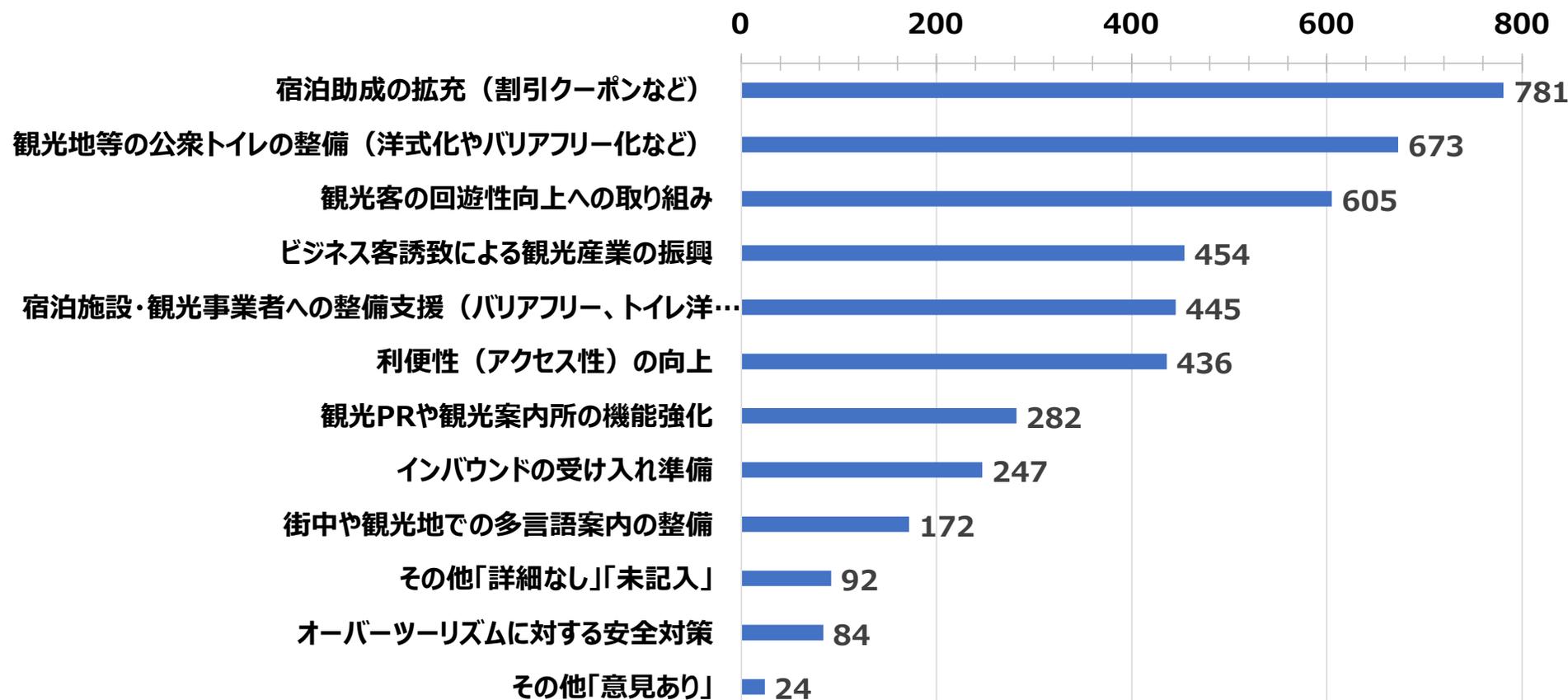


### 【問6】宿泊税について、望ましいと思う課税額の上限を教えてください



実施期間：令和6年8月1日～令和6年8月23日  
 配布方法：38,100部折込  
 折込地域：大崎市内  
 折込媒体：河北、読売、朝日、毎日、日経、産経、大崎タイムス  
 回答方法：用紙記入、webフォーム  
 回答件数：1,541件（内web72件、無効扱い1件）  
 調査：宮城県議会議員 佐藤 仁一

【問7】宿泊税を活用して、充実してほしいものを教えてください（複数回答可）



◆その他記入あり「提案」

- ・アンテナショップの運営
- ・周辺環境の整備を含めた観光地としての魅力の向上にあってほしい
- ・宿泊業者のセンスアップ、宿泊施設の美化、高級化
- ・個人や組合単位ではできないその地域に足りない支援をする事
- ・過疎化により老朽化した設備の改修と雑木林の整備
- ・観光地および観光地周辺の環境整備。雑草等がひどく、古びた観光地の印象が強い
- ・子供が遊べる場所がほしい／子供とともに遊べる空間施設の充実
- ・日本文化の体験型サービスを。
- ・外国人にお願いしてインバウンド観光を充実して！
- ・イベント企画を増やす／イベント多く企画
- ・二次交通の接続性充実
- ・とてもきれいなトイレ、カフェなみにきれいなトイレ、鳴子や地域色を出したトイレ

◆その他あり「意見」

- ・何に使っているかわからない、見えないと思う
- ・新たな税金を導入するのではなく 現行の予算内で工夫してほしい
- ・現行の施策で不十分なものは何か、この税はなぜ考えられたのか
- ・長期宿泊を大切に
- ・思いめぐらしのおもてなし
- ・税と言うマイナスイメージが逆効果になりそう
- ・不用／払いたくないの回答で特になし
- ・観光業（レジャーなど）の広がりを期待する
- ・宿泊税を導入を前提としたアンケートみたいです

実施期間：令和6年8月1日～令和6年8月23日  
配布方法：38,100部折込  
折込地域：大崎市内  
折込媒体：河北、読売、朝日、毎日、日経、産経、大崎タイムス  
回答方法：用紙記入、webフォーム  
回答件数：1,541件（内web72件、無効扱い1件）  
調査：宮城県議会議員 佐藤 仁一